



Chakraと運用管理ソフトウェアとの連携

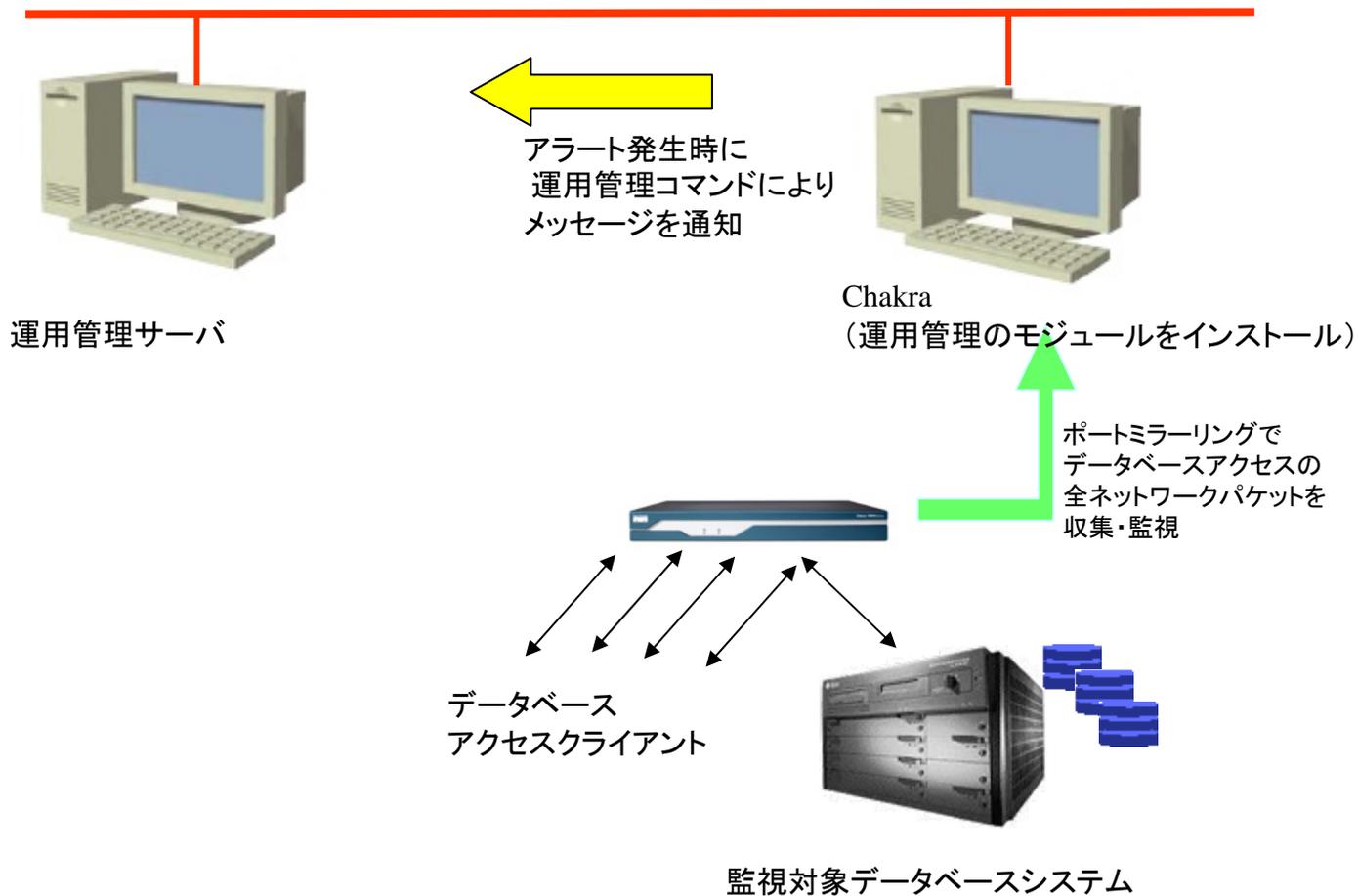
この文書では、Chakraでアラートが発生したときに、そのアラート情報を運用管理ソフトウェアに転送する方法について説明します。



目次

- 連携の模式図
- アラート発生時にプログラム起動 (JP1とSystemwalker)
 - Ver2.1のアラート設定
 - Ver3.0/3.1のアラート設定
- アラート発生時にログファイルに出力 (WebSAM)
 - アラートログの設定

連携の模式図

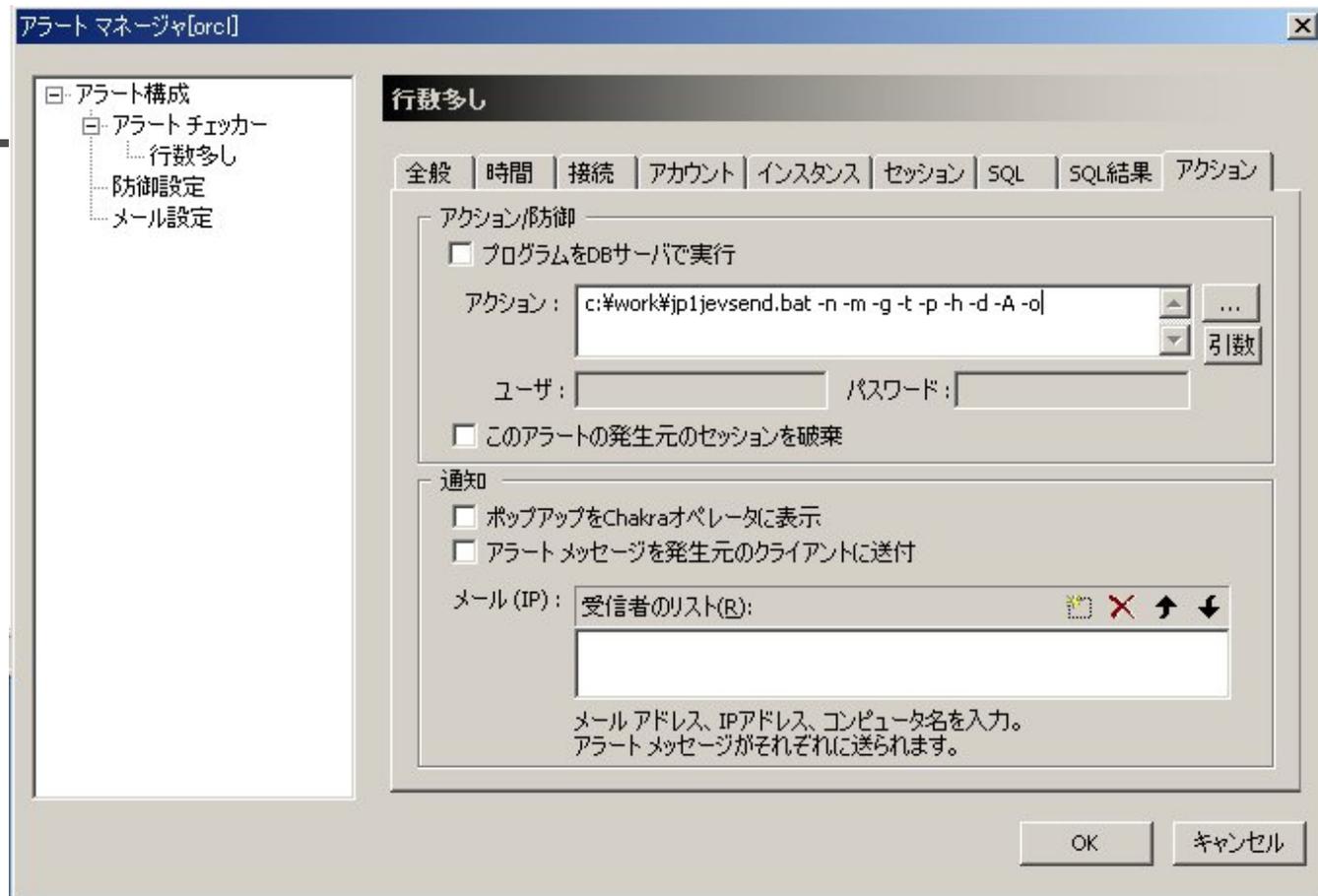




アラート発生時にプログラム起動 (JP1とSystemwalker)

- 日立JP1、富士通SystemwalkerとChakraを連携させるには、アラートが発生した時にプログラムを起動し、そのプログラムで管理コンソールにアラート情報を伝送します。
- アラート発生時のプログラム起動の設定については、次ページ以降を参照してください。
- その中で使用しているバッチプログラムは、サポートのページにあるものをダウンロードして使用してください。

Ver2.1のアラート設定

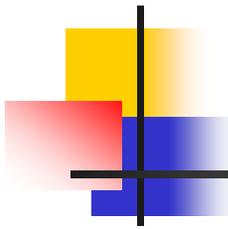


- アラートポリシーのアクションとして、バッチプログラムを指定します。JP1は、jp1jevsend.bat、Systemwalkerは、swalker_opfmt.batです。(あらかじめサポートページにあるバッチプログラムをChakraサーバにダウンロードしておいてください。)

Ver3.0/3.1のアラート設定

- アラートポリシーで『実行』を指定し、Chakraサーバのローカルにあるバッチプログラムを指定します。JP1は、jp1jevsend.bat、Systemwalkerは、swalker_opfmt.batです。（あらかじめサポートページにあるバッチプログラムをChakraサーバにダウンロードしておいてください。）

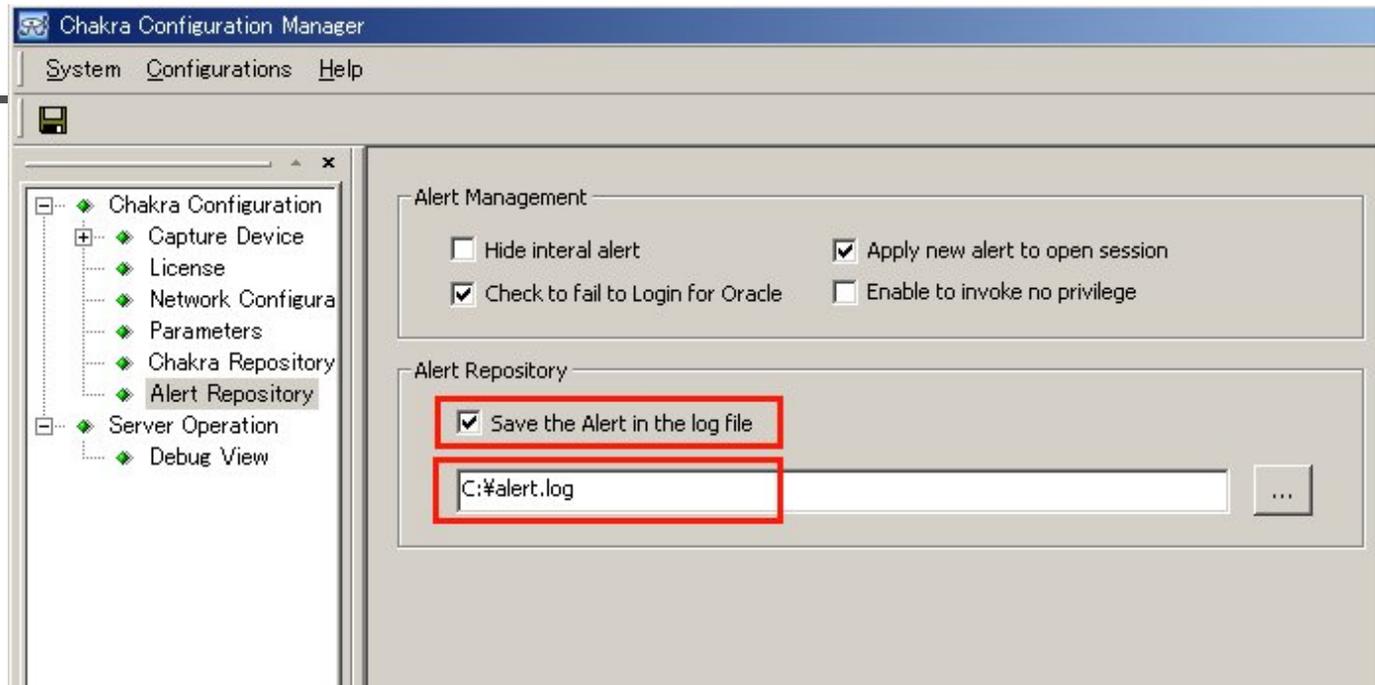
ポリシー名	取得行数が多すぎ
説明	
アラート重大度	緊急
条件式	大文字・小文字の区別 <input type="checkbox"/> dbsqlrows >= 50
ヘルプ	構文の確認
再生成周期	0 秒
防御	<input type="checkbox"/>
適用	<input checked="" type="checkbox"/>
Telnet/Rlogin/FTP/Rcommand リモートアクセス監視サーバ	dp840lv3 tst01 tst02 サーバ選択
SQL監視データベース	lv3symfo orcl13 tst01ora tst02ora DB選択
実行	<input checked="" type="checkbox"/>
パスと名前	ローカル
ヘルプ	C:\work\swalker_opfmt.bat -n -m -g -t -p -h -d -A -o
ユーザID	
パスワード	
ok 閉じる	



アラート発生時にログファイルに出力 (WebSAM)

- NEC WebSAMとChakraを連携させるには、アラートが発生した時にアラート情報をChakraがログファイルに出力するように設定しておき、WebSAMにて、そのログファイルを監視するように設定しておきます。(ChakraサーバにWebSAMの『業務サーバ』をインストールしておきます。)
- WebSAM側の設定については、『Chakra-WebSAM System Navigator 監視連携設定手順書』を参考にしてください。
- Chakra側の設定については、次ページを参考にしてください。

アラートログの設定



- Chakra Configuration Managerを起動し、『Alert Repository』をクリックします。
- 『Save the Alert in the log file』にチェックをいれて、保存先のファイル名を指定します。
- 保存したあと、Chakraサーバを再起動します。